

第十五節 医制の公布と医員履歷書

明治五年の学制によって確立した学校教育制度に併行

するものとして、文部省に設置された医務課を中心に、

医師制度の確立が図られていたが、翌六年、医務局に昇格すると共に、太政官の文部省に対する医制調査研究の

命に基いて、明治四年以来、欧米の医事行政の制度を研究していた長与専斎を中心に衛生制度の確立が期せられることとなり、同年十二月に成稿して太政官に呈出した

が、翌七年八月十八日、文部省は東京・京都・大阪の三府に対し、医制七十四ヶ条を達したのである。この医制を次に抄録することにするが、この医制によって、医学校は当分、東京・長崎の二所に設け、その他の大学区では地方の便宜により漸次設立することを明示しており、各大学区に医学校一ヶ所を置き、病院を附属せしめるという第十二条は全く長崎医学校の当時の全国的な位置を伺わしめるところとも云えよう。

医制（抄）

別冊医制先以三府ニ於テ施行可致御許可相成候処從來之習俗素ヨリ一時難被行事情モ可有之ニ付着手之儀ハ現今緊要之条件ヲ採摘シ其都度可相達候条順次行届候様厚ク可致注意此旨相達候也

但各地ノ流弊ニ因リ難聞事件ハ統テ医制之旨趣ニ基キ将来ノ目的ニ帰宿致候様其条件ヲ掲ケ著手之都度可伺出事

（別冊）医制

第一条 全国ノ医制ハ之ヲ文部省ニ統フ

第二条 医政ハ即人民ノ健康ヲ保護シ疾病ヲ療治シ及ヒ其学ヲ興隆スル所以ノ事務トス

第三条 文部省医務局中ニ医監副医監ヲ置キ専ラ医制ヲ担任セシム

第一 医学校

第十二条 大学区ニ医学校一所ヲ置キ病院ヲ屬ス

（当分）東京長崎二所ニ設ケ其他ハ地方ノ便宜ヲ度リ漸ク以テ設立ス

第十三条 医学校ハ予科三年本科五年ヲ以テ学課ノ満期ト定

第十五節 医制の公布と医員履歴書

ム

予科入学ハ十四歳以上十八歳以下ニシテ小学卒業ノ証書ヲ所持スル者ヲ撰ヒ体質ヲ檢シテ之ヲ許ス（下略）

第十四条 本科入学ハ二十五歳以下トシテ予科卒業ノ証書ヲ所持スル者ニアラサレハ之ヲ許サス（下略）

第十五条 第一大学区医学校ニハ専門局ヲ属シ医学卒業ノ証書ヲ得タル者殊ニ一科ニ志シ其才器大成スヘキ者ヲ撰ヒ學資ヲ給シテ之ヲ入ル

専門ノ科目

解剖科

生理科

病理科

薬剤科

内治科

外治科

公法医学科

此外家畜医学校一所ヲ属ス

（当分）専門局ノ設ナシト雖モ第一大学区医学校ニハ各科専任ノ外国教師一人宛ヲ置キ専ラ其業ヲ講習セシム

（下略）

第十九条 官費ノ病院ハ医学校ニ属スルモノニ限ルヘシ

第二十条 医学校附属ノ病院ハ院長或ハ副院長 当直医師薬局長以下ヲ置クヘシ但シ其員數ハ院長其校長ニ議シ衛生局地方官

ノ協議ヲ以テ文部省ニテ之ヲ定ム

第二十一条 院長ハ公私病院ニ拘ラス医術開業免狀第三十ヲ所持スル者ニアラサレハ其職ニ任スルヲ許サス七条

（当分）本科課目ノ大意ニ通スルモノヲ撰テ之ヲ任ス

第二十二条 医学校附属病院ノ院長ハ専任或ハ校長副学校ヨリ通勤スルコトアルヘシ

第二十四条 医学校ニ属スル病院ノ費用ハ地方ヨリ其幾分ヲ給スヘシ（下略）

第二 教員附外国教師

第二十七条 凡ソ教員タルモノ医学校ハ勿論病院私塾ト雖モ必ス教授免狀ヲ所持スヘシ但シ三人以下ノ子弟ヲ教フル者ハ此例ニアラス（中略）

（現今）教員ノ職ニアルモノハ試業ヲ要セス

第二十九条 教官中ノ一人ヲ推シテ校長トシ学校一切ノ事務ヲ掌ラシム

校長ハ医監ノ撰挙ヲ以テ文部卿之ヲ命ス校長ハ躬ラ教場ニ臨ミ教導ノ体裁教官生徒ノ勤惰進否ヲ察シ全校ノ風儀ヲ整ルヲ以テ旨トス（下略）

第三十三条 外国教師ハ免狀予科教師ハ中学教授免所持ノ者ニ非サレハ雇入ル、ヲ許サス（下略）本科教師ハ開業免狀

第三十四条 外国教師全国ノ医制学校ノ課程ニ附キ建議スル

コトアラハ先ツ其学校長ニ議シ校長ヨリ医監ニ開申スヘシ
第三十五条 外国教師ノ給料ハ一箇月四百円ヲ越ユヘカラス

(下略)

第三十六条 地方病院ニテ外国教師ヲ雇フ時ハ此規則并文部省教師雇入条約規則書ヲ參攷シテ条約擬案ヲ製シ文部省ニ出シテ許可ヲ受ケ然ル後条約ヲ結フヘシ

但シ教師到著ノ上ハ必ス所持ノ免狀ヲ衛生局ニ出シテ点検ヲ受ヘシ

(当分) 在来ノ教師免許狀ヲ所持セサル者アラハ更ニ雇繼ヲ許サス

第三医師

第四十六条 醫師惡性流行病第扶私虎列刺天然痘麻疹ノ類ヲ云フアルコトヲ察

セハ急速医務取締及区戸長ニ届クヘシ流行病予防法別冊アリ

第四藥鋪附売業

第五十四条 東京府下ニ司藥場ヲ設ケ便宜ノ地方ニ其支場ヲ置キ藥品検査及ヒ藥鋪売買等ノコトヲ管知ス司藥場章程別冊アリ

第五十五条 調藥ハ藥鋪主鋪藥手代及ヒ藥鋪見習ニ非サレハ之ヲ許サス(下略)

第六十四条 藥鋪主及ヒ手代ハ必ス醫師ノ処方書其外一定普通ノ業方ヲ記シテ需ムル者ニアラサレハ調合スルヲ許サス(下略)

このような医制の發布に基いて、医師が規制され、又薬剤師もこれに準じて規制されたが、この医制のうち医学校の部分は更に後に検討が加えられ、別個の法令を設

第三章 明治維新による機構改革

けて医学校規則が定められたのである。この医制は明治八年五月十四日に至り、医学校関係の法令を除いて改正され、文部省より三府へ達せられているが、何れにしても明治七年の医制の發布はわが国の医師、薬剤師並びに医学校を規制する最初の法令であった。この医制發布後五日目の八月二十三日、文部省は医務取締の設置を東京府に達し、一ヶ月後の九月十五日には在東京の長崎県支庁は文部省の呼出により医師履歷書提出を督促されている。この書類は九月十一日には長崎県庁で整えられている。この書類は「明治七年、学務課事務簿、内務省省窺届指令留」に明治七年九月十一日、庶務課、学務係の調製した次の文書がある。

管下医術開業其外文部省江御届案相添伺候也

医術開業之者并戸数人口医員届

昨明治六年御省第八十九号御布達医術開業之者及ヒ大小区戸数人口医員取調之儀各区江相達置候処絶海離島多く往復其他追々遷延相成漸ク此節調済則チ別冊之通ニ御坐候此段御届仕候也

第十五節 医制の公布と医員履歴書

明治七年九月

長崎県令 宮川 房之

文部少輔田中不二磨殿

追而履歴書差出候後大小区改正致し候付一覽表ト異同有之候此段申上副候也

次に、大区の所属不明の人名、七名（桜井宗珉、桜井泰造、一ノ瀬栄春、松尾周達、毛利英二、渡辺玄貞、坂玄隣）が第三、第四の両小区として示され、更に次に地域別医師数の一覽表が掲げられている。

長崎県管下大小区戸数人口医員表

大区	小区	戸数	人口	医員
第一大区				
第一小区		千三百四十七	五千四百七十六	五名
第二小区		千三百五十九	五千七百五十九	九名
第三小区		千二百五十七	五千五百一	十六名
第四小区		千四百十二	六千二百廿六	十五名
第五小区		千五百六十九	七千五	八名
第六小区		七百二十三	二千九百四十五	無
第七小区		六百五十一	二千九百七十三	無
第八小区		千五	三千三百六十五	二名
第九小区		外国人居留地		

第十小区 千十九 二千四百二十一 七名

第二大区

第一小区 六百三十八 三千三百廿五 無
 第二小区 八百七十五 四千七百六十三 七名
 第三小区 八百六十四 四千四百五十五 無
 第四小区 千二百十 六千七百一十一 八名
 第五小区 八百五十一 三千七百六十七 七名
 第六小区 九百五十一 四千八百五十五 五名
 第七小区 千七百九十五 八千三十三 三名

第三大区

第一小区 千五百九十九 七千二百八十六 五名
 第二小区 九百七十五 四千三百九十五 三名
 第三小区 千六十九 五千百七 四名
 第四小区 千四百六十九 六千四百四十三 三名

第四大区

第一小区 九百六十七 四千百八十六 十八名
 第二小区 千百十二 五千七十四 六名
 第三小区 六百六十五 二千九百九十二 三名
 第四小区 八百十九 三千八百五十三 四名
 第五小区 千四百十五 六千四百四十四 三名
 第六小区 千三百廿八 六千二百十二 六名
 第五大区 第一小区 五百七十五 二千八百四十五 二名

第二小区	八百四十二	四千六百六十三	四名
第三小区	四百七十四	二千七百七	三名
第四小区	四百六十二	二千九百四十七	二名
第五小区	七百四十七	三千八百三十四	一名

五小区	千六百七十	七千八百十八	十六名
六小区	七百三十	三千五百九十七	無
七小区	八百十四	四千七十二	無
八小区	九百二	四千五百八十九	四名

第六大区			
一小区	七百五十六	三千六百三十二	三名
二小区	千九十三	五千三百九	十名
三小区	千六百八十四	八千二百三十二	四名
四小区	千二百三十	六千二百二十八	七名

第九大区			
一小区	六百廿六	二千九百九十五	二名
二小区	六百四十	三千三百三十五	五名
三小区	六百九	二千九百三十三	二名
四小区	六百六十	二千九百六	二名
五小区	五百三十一	二千四百十七	三名
六小区	五百三十	二千四百七十八	無
七小区	五百四十七	二千九百廿五	二名
八小区	七百廿三	三千六百九十四	一名

第七大区			
一小区	八百四十五	四千三百六十二	五名
二小区	八百十九	四千八十五	五名
三小区	千三百四十八	六千七百廿四	六名
四小区	千四百八十七	七千八百六十四	六名
五小区	六百四十七	三千三百四十二	五名
六小区	八百十一	四千三百三十	四名
七小区	六百九十八	三千六百廿一	四名
八小区	千三十二	五千二百八十四	五名

第十大区			
一小区	六百八十三	三千二百四十七	二名
二小区	八百六十三	四千八	五名
三小区	七百三十二	三千四百廿一	四名
四小区	八百三十三	三千九百四十三	三名

第八大区			
一小区	六百七十一	三千四百九十五	四名
二小区	五百八十四	三千十六	四名
三小区	六百六十二	三千六百十四	一名
四小区	二千二百八十四	一万三千五百七	二十名

第十一大区			
一小区	八百十九	三千六百四十六	四名
二小区	二千二百二十二	九千三百	十四名
三小区	千二十二	四千二百廿八	三名
四小区	九百三十	三千八百三十六	四名

第三章 明治維新による機構改革

第十五節 医制の公布と医員履歴書

第十二大区

一小区	三百六十一	千五百九十	四名
二小区	五百三十九	二千三百十七	三名
三小区	四百九十九	二千十九	二名
四小区	六百三十三	二千六百三十三	一名

第十三大区

一小区	千六百六十四	五千八百四十八	十二名
二小区	五百十七	二千四百七十二	四名
三小区	六百三十一	三千百五十四	
四小区	千百三十六	五千四百九十四	

第十四大区

一小区	七百十	三千四百九十七	三名
二小区	八百十七	四千三百二十二	五名
三小区	六百十	三千三百七十	二名
四小区	五百一	二千七百六十四	一名

第十五大区

一小区	千二十二	四千六百七十一	
二小区	千三百	六千五百四十四	
三小区	六百十三	三千百十三	
四小区	千六	五千五十八	六名
五小区	千十四	五千六十九	
六小区	三百二十九	千四百九十三	

第十六大区

第十七大区

一小区	千四百十二	五千七百四十二	三名
二小区	千二百八十一	七千八百八十七	二名
三小区	四百六	二千三百一	三名
四小区	六百六十二	三千五百	三名

第十八大区

一小区	三百十七	千五百十九	
二小区	四百十二	二千百三	
三小区	五百四十五	三千九十一	四名
四小区	四百三十三	二千四百九十八	一名
五小区	二百四十一	千四百九十三	一名

第十九大区

第一小区	千百七十三	四千六百廿一	五名
第二小区	八百九	三千五百七十四	六名
第三小区	千五十一	四千五百六十九	五名
第四小区	七百二十四	三千二百六十九	二名
第五小区	八百二十	三千八百十二	二名

第二十大区

第一小区	五百三十二	二千二十五	三名
------	-------	-------	----

第二小区	九百三十三	四千四百十二	
第三小区	六百八十三	二千九百六十五	
第四小区	六百二十五	二千八百三十七	一名
第廿一大区			
第一小区	千二百六十五	五千四百十	二名
第二小区	五百六十七	二千五百二十八	一名
第三小区	八百七十	三千九百二十	一名
第四小区	三百五十二	千四百七	
第五小区	四百八十一	千九百七十六	一名
第廿二大区			
第一小区	七百六	二千八百二十	
第二小区	五百四十六	二千二百二十四	一名
第三小区	四百八十八	千八百三十三	
第四小区	千二十一	四千二十六	
第廿三大区			
第一小区	八百六十三	三千五百六十二	五名
第二小区	七千六十七	三千五百四十七	
第三小区	千百九十七	五千三百二十七	二名
第廿四大区			
第一小区	二千五百六十	一万三百六十九	
第二小区	五百五	二千二百三十六	
第三小区	千四百四十四	五千九百四十四	
第四小区	千三	四千八百二十七	

第廿五大区			
第一小区	千百三	五千四百六十四	
第二小区	千六百三	七千八百九十二	
第廿六大区			
第一小区	五百九十二	三千二百四十四	二名
第二小区	三百三十八	千七百三十七	
第三小区	三百九十八	二千三百三十七	二名
第四小区	五百四十	二千五百五十八	一名
第五小区	五百十	二千四十三	一名
第六小区	三百七十二		
第廿七大区			
一小区	七百六十九	三千二百二十六	四名
二小区	三百二十五	千四百四十二	二名
三小区	千四百十五	七千八百八十一	七名
四小区	六百十九	三千二百二十四	五名
五小区	千三十	五千三百五十九	六名
第廿八大区			
一小区	九百五十一	四千九百八十二	八名
二小区	千百五十四	五千五百廿一	十七名
三小区	五百九十二	三千百十四	
四小区	九百十五	四千四百九十三	
五小区	七百七十一	四千二百七十一	二名
六小区	八百三十九	四千三百九十二	三名

第十五節 医制の公布と医員履歴書

第七小区 千廿八 五千百廿一 四名

第廿九大区

一小区 千三 五千二百一 三名

二小区 二百四十五 千一百一 一名

三小区 六百十四 三千五十四 三名

四小区 五百五十八 二千五百廿六 三名

第三十大区

一小区 千四百一 五千三百二十六

二小区 六百六十五 二千三百六十五

三小区 九百七十三 三千五百十九

四小区 千四百七十六 五千六百八十五

五小区 千三十二 三千八百十二

六小区 千二百八十二 四千六百七十五

七小区 千十九 三千六百八

八小区 千百三 三千九百四十二

第三十一大区

一小区 八十九 四百四十

二小区 二十六 百七十四

三小区 三十四 百七十

四小区 四十三 二百二十三

五小区 二十六 百十七

六小区 百九十一 九百九十三

七小区 三十五 百七十四

八小区 百二十 六百六十六

九小区 五十二 二百九十六

十小区 五十 二百七十六

十一小区 七十七 四百九

十二小区 五十六 二百七十六

十三小区 五十四 三百二十

第三十二大区

一小区 四百二十六 千五百二十九 一名

二小区 四百十五 千四百三十六 三名

三小区 四百六十三 千五百六 九名

四小区 七百六十六 二千三百九十八 四名

五小区 五百十四 千九百二十九 四名

以下、第三十三大区（廿五小区）、第三十四大区（十小区）、第三十五大区（十三小区）まで戸数人口のみ記載があるが、医師数の記載はない。あちこちと記載洩れの個所もあるが、大凡その医師人口比が伺えるのでここに収録して置いた。

「明治七年、学務課事務簿、諸方来往翰、全」に、東京支庁より医員履歴差出方に関する交渉文書があるので次に掲げよう。

昨十四日文部省ヨリ御呼出ニ付出頭候処六年六月第八十九号
第百四拾四号ヲ以御布達相成候医師履歴明細書差出方之儀御
達相成居候処示令進達不致差支不尠候条往復日数ヲ除之外五
日限り可差出旨同省医務局ニ於テ敝達相成候至急御差越有之
度此段御懸合およひ候也

七年九月十五日

長崎県支庁
(長崎県
出張所)

庶務課
御中